



**SHUNKEN 2011-11 39-03**

**駿建**

2011年秋期号 Vol.39 No.3 日本大学理工学部建築学科 日本大学短期大学部建設学科

# SUPER JURY 2011

西脇 梓

今年度はUIA2011 東京大会「建築大学展」公式参加企画として、9月26日から10月1日の6日間にわたりNU Architecture Week を開催しました。今年度、特任教授に就任した山本理顕先生による「NU 建築フォーラム」や「2010 年度修士設計・卒業設計展」とともに、最終日に「SUPER JURY 2011」を行いました。

今年で9回目の開催となる「SUPER JURY 2011」は、10月1日駿河台校舎1号館CSTホールで行われました。この催しは2～4年生、大学院1年生の前期設計科目優秀作品を一堂に集め、ゲスト審査員を迎えて横断的に講評会を行うものです。

NU Architecture Week 期間中、1号館CSTギャラリーでは、前期設計科目優秀作品計23作品の図面と模型による展示が行われ、建築学科の学生に限らず多くの方に見ていただく機会を得ました。

今年度のSUPER JURYは、槻橋修氏（建築家・神戸大学准教授）、野老朝雄氏（アーティスト、デザイナー・TOKOLO.COM 主宰）、谷尻誠氏（建築家・サポーズデザインオフィス代表）をゲスト審査員に迎え、佐藤光彦教授がモデレーターを務められました。また、本学の常勤、非常勤講師である先生方にもお越しいただき、白熱した講評会となりました。

各方面で活躍されているゲストならではの視点は、時折学生への良いアドバイスとなり、講評中にパッとひらめきがあったような明るい表情をする学生もいました。また、当日発表できなかった学生にとっても、参考になるコメントが多く、次の課題の製作意欲をかき立てられ、良い刺激を受けたのではないかと思います。6時間にわたる講評・審査の末、ゲスト審査員・モデレーターによって受賞作品が発表されました。

## 槻橋修賞：杉山敬明（2年）「Tom's diner」

学生の設計というのは、基本的には技術を身に付けて、自分のデザイン力を表現したりすることに費やされます。大体、外構がなっていないとか、周りのことを全然考えていないものです。ただし、今回1人だけ、自分の建築が周囲を変えると豪語した杉山君にこの賞を贈ります。本当に周囲を変えるかはわかりませんが、そういう気持ちは大事だと思います。プライバシーを確保しながら、真ん中の2階を思い切って開き、都会的な生活をしようという良さは伝わりましたが、だからこそ、足元の設計をもう少し考えてほしかった。けれども、彼の明るさ、自分の設計を人に伝える時のみんなを楽しくするあの感じは、1つの才能だと思うので、今後は、その良さも同時に伸ばして欲しいです。

## 野老朝雄賞：張 圭妍（3年）「Conversation Library」

ほとんど窓がなく、全面が本に囲まれた閉じた空間だが、建物から出ると自然が広がっている、井の頭公園という敷地ならではの作品と言えると思います。ただ、もっと多層にもなり得るし、いろいろやれることはあったでしょう。4つの曲線が複雑に絡み合っているのに、その曲線にはルールがないと言い切りましたが、われわれはどうしても根拠を求めてしまうため、これは恣意的かそうではないかを考えさせられました。勘違いしないでほしいけれど、ルールがないと言えた強さは、今後失ってほしくないです。魅力的な案だったし、何よりプレゼンテーションがすごくニコニコしていました。自分のアイデアに愛情をもっていることが、とても強く伝わってきました。見て見て!! って人じゃないと、社会では聞いてもらえないので、これからも心がけてください。



①会場風景（左から槻橋氏、野老氏、谷尻氏）  
②槻橋修賞 杉山敬明  
③野老朝雄賞 張 圭妍  
④谷尻誠賞 小笠舞穂

### 谷尻誠賞：小笠舞穂（2年）「tree—御茶ノ水のやどりぎ」

すごく優秀な案ではないけれども、その子の未来に期待を込めて表彰したいと思います。非常に荒削りですが、あんなとんでもないものは、常識があるとなかなか設計できません。その常識のなさも、価値あるものだと思います。野老さんは、勘違いしないでほしいと言いましたが、私は勘違いしないでほしいとも言いたいです。最初は全然ダメだったけれども、そのうち私にもできるかなと思いついて、だんだんと私にしかできないという思いにたどり着くこともあります。皆さん大いに勘違いして、私がやるんだという気持ちで、これからの未来を背負う建築家を目指してください。

### 佐藤光彦賞：田中 梢（2年）「1room?」

本人が意図して説明しているところ以外にも、この案にはとてもたくさん可能性がありました。ワンルームというコンセプトなので、ワンルームの中を説明していましたが、反対の外部空間、とくに1階周りとか、その辺りの空間が非常に谷中の中で可能性のある空間になるのではないかと思います。ワンルームを立体的につくったことにより、1階部分が解放されて、さらに2階部分の空間ができあがっていました。この可能性を見つめ直して、もう一度自分の案を振り返ってみると、さらに良くなると思います。

### 優秀賞：上田林太郎（3年）「お茶の水小学校」

これは皆さん納得の優秀賞ですね。敷地のとらえ方が良く、高低差をうまく利用していました。コンコースが体育館とグラウンドをつなぎ、それらの間に、教室や特別教室がある、すごくシンプルな構成でした。また、そのコンコース自体にも高低差をもたせ、豊かな空間づくりを目指していました。ただ、コンコースの賑わいを表現する絵がなかったことが少し残念でした。この案は、コンコースをどれぐらい絵で描くかで、もっと良くなったと思います。それから、タイトルの付け方はとても大事なところです。もっといろいろなことが起きますよと想像している案なのに、すごく堅いタイトルをつけてしまっているので、より自由なタイトルをつけても良かったと思います。

### 最優秀賞：江崎桃子（2年）「フレームの家」

多種多様な場所をつくり、小さなボリュームをたくさん組み合わせているのに、何となく全体像がある、その構成力は素晴らしい。概念としてはかなり完成度の高いところまでできています。最優秀賞というのは、すごく良くできていたということだけではなく、教育的な効果であったり、プレゼンテーションの受け答えだったり、いろんなことが相まって得られる賞だと思います。たまたま審査員とのコミュニケーションがうまくいったことも含めてです。この最優秀賞をこれから自信にして、あるいは最優秀賞を取れなかったみんなに対する責任として、より研鑽を積んでいただきたいと思います。

最後に、「皆さんのいる御茶ノ水は学ぶには最高の場所です。いろいろな人に会えて、いろいろな情報が手に取れる環境をフルに使って切磋琢磨してほしい」と審査員から学生に向けてエールが送られました。参加した学生たちは、講評会を通して新たな課題を発見できたのではないかと思います。（にしわきあすさ・助手）

2年	建築設計Ⅱ	第1課題 パブリックスペース	行徳美紗子, 花谷なつみ, 小笠舞穂, 池田汐里
		第2課題 住宅	江崎桃子, 和田 優, 田中 梢, 杉山敬明
3年	建築設計Ⅳ	第1課題 〈設計・計画コース〉 小川町図書館	落合俊行, 富樫由美
		第1課題 〈企画経営, 環境・構造コース〉 建築デザインスクール	今野将志, 高島千暖
		第2課題 〈設計・計画コース〉 新お茶の水小学校	上田林太郎, 沢田拓郎
		第2課題 〈企画経営, 環境・構造コース〉 まちのライブラリー	張 圭妍, 高木健太
4年	建築設計Ⅵ	都市環境の リ・デベロップメント	〈横河ユニット〉 小野加愛, 丹下 幸太, 中山 将, 平野悠哉
			〈竹内ユニット〉 原 俊介, 和田 智子, 武久忠正
			〈福山ユニット〉 番屋陽平, 矢嶋 宏紀, 柳 皓成, 山崎周拓
M1	建築デザインⅠ	建築の再生	〈今村ユニット〉 太細雄介
			〈高宮ユニット〉 宮澤和貴
			〈西沢ユニット〉 藤井しづか
			〈佐藤ユニット〉 山田明加

展示出展者リスト



⑤佐藤光彦賞 田中 梢  
⑥優秀賞 上田林太郎  
⑦最優秀賞 江崎桃子

# 2011年度 デザインワークショップ I

共通テーマ：あの人があの家に住んだら

渡辺富雄，大野博史，川島 茂，福山博之

今年は以下のような共通テーマのもと，3年生42名，4年生14名，全体で66名が参加して，7月29日～8月5日に行われました。

主旨：20世紀を代表する国内外の住宅建築に，皆さんが想定するさまざまな分野の著名人が住むことになったら，住宅はどのように更新されるのか？ オリジナルのコンセプトや空間を理解したうえで，住む人のキャラクターを尊重し，増改築します。建築のリノベーションはカバー曲に似ています。すでにある曲を，ほかのアーティストがアレンジし直して演奏したカバーには多くの名曲がありますが，リノベーションもカバーも，オリジナルに対する批評的な解釈と新たな価値が提出できなければ成功はありません。この課題は建築の過去と未来についての思考であり試行です。

ステップ1：

- ・『「あの家」のリサーチ』1/20～1/30の模型を作ることによって，住宅のオリジナルコンセプトを読み解く。
- ・『「あの人」(有名人)をリサーチする』キャラクターを尊重し，ライフスタイルを想定する。

ステップ2：

新たな価値を付加する増築・改築などの提案。模型・平面図，断面図で表現する。

ユニットマスターは，非常勤講師の大野博史先生（オーノJAPAN代表），川島茂先生（川島鈴鹿計画代表），福山博之先生（福山建築事務所代表），そして専任で事務担当の渡辺の4名4ユニットでした。

各ユニットで取り上げられた「あの家」は，大野ユニットでは（最小限住宅，ファンズワース邸，ロックフェラー邸，イームズ自邸の4チーム），川島ユニットでは（ル・コルビュジエの母の家，アアルトの夏の家，コシノ邸の3チーム），福山ユニットでは（ウィントンゲストハウス，フィシャー邸，イームズ自邸の3チーム），渡辺ユニットでは（塔の家，シュレーダー邸，白の家，アアルトの夏の家）の4チーム）でした。

今年の特徴は，原則5名のチームを作り，チームリーダーを中心に模型作成，図面など手分けして協働作業を進めたところ。第1ステップの大きなスケールの模型は迫力があり，私たちユニットマスターもあらためてそれぞれのオリジナルの住宅を再確認する機会になりました。

一方で第2ステップでは，別のあの人（有名人）が住むことを想定して，巨匠たちが設計した住宅に手を加えるわけですから，どのようにストーリーを組み立てるか，どのチームも悪戦苦闘していました。しかしながら，ワークショップを通して，協働の難しさや楽しさを体験できたのではないのでしょうか。以下，最終発表会で各ユニットから選ばれた特徴ある案をいくつか紹介します。

（わたなべとみお・准教授）

## 大野ユニット

●岩田大輝，大堀裕太，池尻 愛，長澤彩乃，山本彩織

最小限住宅：アルネ・ヤコブセン

戦後日本の住宅難の際に生まれた最小限住宅・増沢邸



大野ユニット  
①最小限住宅 ②最終講評会  
③ファンズワース邸



川島ユニット  
①最小限住宅 ②最終講評会  
③夏の家



は、建築面積 30m<sup>2</sup> (9 坪)、延床面積 50m<sup>2</sup> (15 坪) の住宅である。この住宅は単に小さい家ではない。従来の日本の木造住宅に対してモダニズムを取り入れ、設計された住宅であった。その最小限住宅にデンマークの建築家・デザイナーのアルネ・ヤコブセンを住まわせる。

私たちの提案はスケッチを好んだヤコブセンのために 1 坪分のスケッチルームを増設し、事務所・作業所として使用するものである。この 1 坪の空間はプロジェクトが増えるごとに増え、プロジェクトが完成するといくつかの壁を残し、建築の空間を広げていく。その際に残った壁にはヤコブセンのスケッチが残されていく。この増設は 1971 年まで続き、ヤコブセンの死とともに最大限になる。  
(いわただいき・今村研 4 年)

### 川島ユニット

● 蓮沢美紗希, 米山祐子, 丸山麻美, 宮沢 綾, 飯岡千明  
母の家：ココ・シャネル

母の家は、シャネルの全盛期にル・コルビュジエによって、彼の両親のために設計された。ココ・シャネルは“CHANEL”のブランドを立ち上げた 20 世紀の女性である。当時の流行を否定し、その時代の女性が本当に必要とした機能的な服をデザインした。しかし、実生活では孤独な人生であった。70 歳での現役復活を果たした彼女は、社交生活も恋愛も忘れ、仕事にのみ情熱を注ぎ、24 時間を仕事にささげる。

そんな彼女のための家をデザインし、コルビュジエのデザインした部分は白く残し、ココが付加した部分は黒く表現してある。白と黒はココが好んだ色である。一枚の壁は回遊性をもたず、生活空間と仕事を分断し、傾けることで、日常生活に圧迫感を与え、常に光の当たらない空間で生活するとともに、仕事を開放的にした。室内とは対照的な庭は、人に見せるための空間であり、華やかで幸福な生活をしていることを示すものである。

(はすざわみさき・八藤後研 4 年)

### 福山ユニット

● 原野寛幸, 星 衛, 藤塚悠人, 三宅尚人, 穂積利宏  
ウィントンゲストハウス：ブラッド・ピット

フランク・O・ゲーリーが設計した「ウィントンゲストハウス」の新たな施主として、ハリウッドスターとして名高いブラッド・ピットを選んだ。2 人はプライベートにおいて、度々家族ぐるみで食事をするほどの友人関係である中、建築においては師弟関係にある。

そこで、次のようなストーリーを展開する。売りに出された「ウィントンゲストハウス」。それをブラッド・ピットが、自身の建築に対して向き合う場として購入し、改修する。その改築案は、彫刻的造形美であり、それぞれ異なるテクスチャーを用いた外観を内部空間に置換。外形がそのまま床となり、壁となり、豊かな空間を生む。手法として、シンプルな正方形の白いボックスを 1 つ、既存住戸にかぶせ、新たな魅力的空間を創造する提案である。  
(はらのひろゆき・3 年)

### 渡辺ユニット

● 柳田貴裕, 沼田泰成, 工藤大将, 宍倉健人  
塔の家：宮崎 駿

塔の家を宮崎駿の別荘という設定で、リノベーションした。竣工時、塔の家（東孝光）は周辺の建物よりひときわ高く、“塔らしさ”があった。しかし現在は埋もれ、“塔らしさ”を失ってしまっている。

そこで、塔の家の彫刻的なフォルムはそのままに、“塔らしさ”を再構築しようと考えた。

居室を避けるように成長する木。雨が落ち、都市の音が聞こえる動線。宮崎駿は、都市を語り、作品に反映させるため、都市の雑踏を求めここに住む。

極小住宅とされている塔の家のスラブを一度取り払い、必要最低限の室内空間だけを抽出し、スパイラル状に設定した動線上に配置していく。動線は半野外もしくは野外空間であり、都市の音が聞こえる道である。

(やなぎだたかひろ・3 年)



福山ユニット  
①ウィントンゲストハウス  
②最終講評会／福山ユニットマスターと原野チーム  
③イームズ自邸



渡辺ユニット  
①塔の家 ②最終講評会  
③フィシャー邸



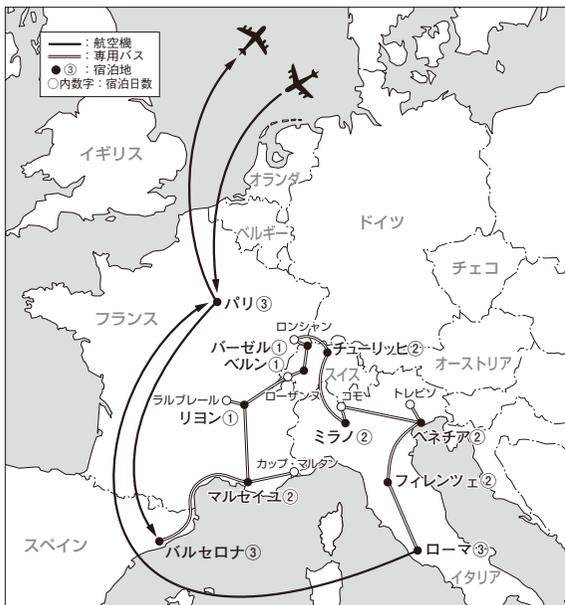
## 第43回 建築学生海外研修旅行報告

今回の研修旅行は、南欧を中心としたAコース(8月17日出発)と、北欧を中心としたBコース(8月22日出発)で、どちらも特色ある充実した研修となりました。旅行中のいろいろなハプニングもありましたが、全員無事に帰国することができました。Aコースは欧州の4カ国を24日間、Bコースは欧州の6カ国を22日間で駆け巡り、

参加学生(Aコース:41名、Bコース:38名)は各地で建築だけでなく、美術、音楽、食、そして人々のふれあいと、その土地の文化を十二分に堪能したようです。ここではその体験のいくつかをご紹介します。

(秦 一平・助教)

### Aコース 建築の先端とモダニズムと歴史を旅する夏

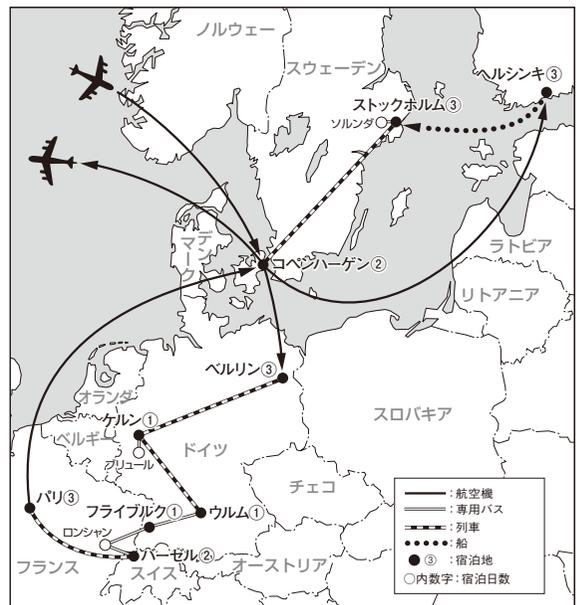


ローマにて (Aコース)

〈同行教員〉今村雅樹教授、秦 一平助教

〈参加学生〉遠藤寛久、杉山悠子、奥富大樹、大澤依理子、久保貴子、渡辺裕貴、高槻彰紀、武川 稔、金田良太、加藤俊彦、宍倉健人、中田有紀、田巻翔平、高松慶介、西田和樹、吉沢形成、安居裕之、中島奈津美、松井里奈、羽成朋絵、淵上久美子、藤井 碧、山口智也、山下雄大、三宅尚人、星 衛、沢田拓郎、平野雄一郎、石塚孝裕、竹内梨奈、下平 隆、佐藤利成、勝又高、小栗茉優、坂本美沙希、小塚友里子、田中 梢、長澤彩乃、山口高広、古谷隆泰、山川洋介 以上41名

### Bコース 北欧デザインと中部ヨーロッパ近代都市をめぐる旅



森の墓地にて (Bコース)

〈同行教員〉八藤後 猛准教授、川島和彦専任講師

〈参加学生〉佐々木嘉理美、平 拓人、田中陽一郎、吉野祐太、米山隆晃、芳我まり子、和田智子、伊藤 梓、内野 卓、勝又真理子、金井修司、川名部弘揮、小林 寛、齋藤拓馬、坂本 蘭、櫻井駿士、櫻井大州、新藤辰典、鈴木悠太、染谷健太、高島千暖、滝崎温子、竹内 梓、田中雄一郎、富樫由美、戸田雄大、中川梨菜、中嶋真桜、中村 健、畑田鉄平、藤田有希子、藤塚悠人、本郷祐子、宮代 薫、山本彩織、今井亜紀、児玉 萌、高 久乃 以上38名

## オランジュリー美術館

高松慶介（3年）

フランスのパリにあるオランジュリー美術館について書きたいと思います。私はオランジュリー美術館の事前学習をしていなかったの、とくに関心はなかったのですが、とても楽しむことができました。オランジュリー美術館はもともとオレンジ温室だったのですが、モネの作品を収めるためにコンバージョンされました。建物内にも模型が展示されてあったように何度も改修され、今の形となっています。以前、浜名湖花博という花の万国博覧会が行われた時、「モネの庭」が展示されていたのですが、何も感じませんでした。しかし、オランジュリー美術館に展示されていた「睡蓮」を見て、本当に綺麗だと感じました。採光の仕方や真っ白な空間を楕円にして視界180度睡蓮の景色になるような空間づくりにより、ほかの画家の作品も面白かったのですがモネの作品は言葉で言い表せないほど素晴らしかったです。オランジュリー美術館自体がコンバージョンなので、昔の組積造部分も残りつつ現代的な展示空間にもなっていて、とても面白かったです。

今回海外研修を通して、私は自分の未熟さをあらためて痛感させられました。それは、建築の知識はもちろん、建物やその国の歴史、時代背景がわからず、古典建築を見てもまったく面白さを感じることができませんでした。しかし、ガイドさんが説明してくださった古典建築は、説明があったため、理解しながら楽しく見学することができました。しかし、ここでも1つ自分の未熟さが浮き彫りになりました。それは言葉の壁です。ガイドさんが日本人もしくは日本語が話せる人ならば大丈夫ですが、英語を聞いて理解しなければならぬ場面も多くあり、今村先生が解説してくださることもあり助かりましたが、やはり将来個人や仕事で海外に行った際、困るのは自分だけでなく、相手にも迷惑をかけてしまうんだと感じました。ほかにもこれから自分が何をしていかなければならないのかを感じさせてくれる研修になり、最後に今村先生の言った「旅は人生の縮図だ」という言葉にとても共感しました。

オランジュリー美術館  
(建物内)

## カサ・ミラ

加藤俊彦（3年）

私は今回の海外研修旅行に参加したことで本当にたくさんさんの建物を見て、実際に建物に触れ、さまざまなことを感じるというとても貴重な経験をすることができました。

本当にさまざまな様式や形、色をもった建物の中でも一番印象に残った建物がA. ガウディのカサ・ミラでした。私がカサ・ミラを見て一番初めに感じたことは、なぜガウディの生きていた時代に、このような形の建物を作ろうという考えが浮かんだのだろうかという驚きと、実際にこのような形の建物を作り上げることができたことに対する尊敬の念でした。また、ガウディがカサ・ミラに対してコンセプトとした、すべてに自然のままの形を取り入れるということにとっても興味をもちました。そして、自然の中に直線は存在しないという考えを基に、階段の手すりやドアノブなど、細部に至るまですべての箇所が曲線で作られているというすばさに驚き、また曲線にしか出すことのできないやわらかさや優美さといったデザインにもとても興味をもちました。また、カサ・ミラを見た後にコルビュジエなどの直線的な建物を見ることによって、直線的な建物の力強さやシンプルさの良さもあらためて感じることができ、逆に曲線美の素晴らしさをあらためて考えることができたり、曲線と直線の建物のそれぞれの良さを感じ取ることができました。内装の家具などもガウディがデザインしていて、左利きでも右利きでもどちらでも開けやすいように考えられたドアノブや、最も座りやすい形にデザインされた椅子など、建物以外にもたくさんものがあり、そしてそのどれもが曲線で作られており、すべてのものを妥協せずに曲線で作り上げたことから、ガウディのこだわりや情熱を感じ取ることができ、とても刺激になり、信念を曲げないことの大切さなどを学ぶことができた建物でした。

今回の海外研修旅行に参加して、私は本当にさまざまなことを学びました。例えば窓の配置と光の取り入れ方であったり、柱の太さと空間の関係であったり、人が暮らす場所の間取りであったり、さまざまな形にデザインされた階段であったりというように、本当に数え切れないくらいの事柄です。そして、すべての作品に設計者の情熱や信念が映し出されていて、当時、実際に本人たちがデザインして触れたものに同じように触れることによって、さまざまな名建築家から何か力をもらえたような気がします。



カサ・ミラ

今回の旅行で学んだ本当に貴重な知識と経験を、これから先のさまざまな事柄に生かしていきたいと思います。

## サグラダ・ファミリア

羽成朋絵（3年）

今回の海外研修で私が一番印象に残った建築は、ガウディのサグラダ・ファミリアである。

そのファサードの迫力と、世界中の誰もが知っている有名建築を生で見られたという興奮で、私の口からは終始「うわ〜！」という感嘆詞ばかり出ていた。

サグラダ・ファミリアの外観は教科書やインターネット、テレビCMなどでもよく目にしていたが、実際に目の前にすると想像していたよりはるかに大きかった。また建物内に入ると天井がとても高く、個性的なデザインをしていることに驚いた。柱は上の方で枝分かちされていて、それがさらにもう一度枝分かちし、天井の荷重を分散させて支えていた。その様子が木の幹と枝のように見えて、森の中にいるような感覚にもなった。

ヨーロッパの建築を見ていく中で私がよく思っていたことが、「地震があったら崩れてきそうだな」ということだった。サグラダ・ファミリアでも枝分かちした柱が細く、地震が来た時のことを考えたら少し怖くなった。しかし、逆に日本では決して見ることのできない構造であり、とても新鮮で見るのが楽しくもあった。

ほかには、ステンドグラスがとても綺麗だったのが印象的だった。まだステンドグラスが入れられていない箇所も多かったが、それらが全部完成した時のことを想像するだけで、とても綺麗だと思う。

日本では教会に入る機会がほとんどないから、この時点ではまだ教会が一般的にどのようなデザインをしているのかがまったくわからない状態だったのだが、この旅行でたくさんの教会を見学して、あらためてサグラダ・ファミリアは奇抜なデザインの教会だったんだなと思った。そして、すべての工事が終了した時にまた見に来てみたいと思った。



サグラダ・ファミリア

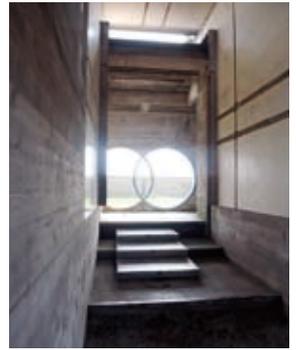
## 素材とディテール〜プリオン家の墓地〜

杉山悠子（3年）

イタリアの水の都ベネチアを離れ、農地に囲まれたの

どかな地にプリオン家の墓はある。これはカルロ・スカルパの最後の作品で、彼自身もここにひっそりと眠っている。研修で、ディテールが印象的な作品であった。

まず、入り口は2つあり、一般の墓地からの入り口と礼拝堂に向かう入り口がある。この写真は前者の入り



プリオン夫妻の墓地

口で、この階段は少し左寄りに配置されており、訪れた人が無意識に左に進むようになっている。進んだ先にあるものはプリオン夫妻の墓だ。写真正面の2つのリングが交差した開口部は、青と赤のタイルでそれぞれ縁取りされ、プリオン夫妻の永遠の結婚指輪を表している。このタイルは夫妻の墓の屋根の内部などにも使われ、年月のたったコンクリートの風合いにきらびやかなタイルがアクセントを加えていた。扉には、からくり屋敷のような工夫が施されていてどれも面白い。祭壇室の扉は回転式で、通路の扉は床に沈み込むタイプ、開き方のわからない入り組んだ扉もあった。また、祭壇室には大理石の窓があり、ガラスの代わりに薄くスライスした大理石がはめ込まれ、そこからぼんやりとした光が入る。これを見て隈さんの石の美術館にも、同じ手法を使った一室があるのを思い出す。このほかにも、互い違いの階段や、はり巡らされた水路、池の中には何か古代遺跡のようなもの、敷地を囲む壁には傾斜がつけられて、その角の格子の窓からほんの少し外の風景が垣間見え、床や天井や壁は細部までデザインされていて書ききれない。細かく見ていけば1日かかりそうだ。この墓地には、細部に気を使わないとできない独特の雰囲気がある。

帰国してこれまでの設計課題を振り返ってみると、真っ白のスチレンボードを使い、縮尺した模型を作り上げていた。空間を組み合わせていけば、素材やディテールを考えなくても完成できた。しかし、研修を通して、実際には素材の選出とディテールまで気を配ることが建築の雰囲気を決定づける重要なものだ気づかされた。さらに、研修ではさまざまな地域と国を訪れた。大理石の建築やスイスのカラフルな配色の住宅、土地によって違うレンガの色の住宅など、土地によって変化する建築を見て比較することができ、長旅ならではの貴重な体験となった。研修を通して、配置計画や空間構成ももちろん大切だが、素材の選出とディテールにこだわるのが、建築の雰囲気を決定づける重要な部分であるとあらためて気づかされた。これからも本物を自分の足で見に出かけ、吸収していきたい。

## 温かみのある北欧デザイン

竹内 梓 (3年)

とにかくすごく思い出に残る旅でした。私は海外に行くのが初めてで、行く先々での建築はもちろん、街並み、人、言葉、文化などに触れることが新鮮で貴重な経験となりました。そして以前から北欧にはすごく興味があって、北欧雑貨を集めることや、アルヴァ・アアルトの建物の写真集を見るのが好きで、今回Bコースに北欧3国が盛り込まれていると知った瞬間に研修旅行に参加することに決めました。

研修旅行の始まりはいきなりフィンランドからで、的にメインとなるであろう国が最初で、かなり大興奮でした。まずアアルト建築巡りということで、アアルトのアトリエ、自邸などを回りました。アアルトの自邸は、外観はシンプルでデザイン感があまりなかったけど、中に入るとすごく落ち着いた温かみがあって、自然の光がなんて爽やかなのでしょうか！ それにアアルトといえば建築だけでなく家具のデザイナーでも有名であることから、家の中はアアルトの木でできた椅子や、白くて透明感のあるランプなどでいっぱい、とてもおしゃれでした。これも北欧の冬がマイナス何十℃にもなる極寒であるからこそ、家の中を自然の光やおしゃれな家具で温かみのある空間を作り出し、内を楽しもうという表れであるなと思いました。それとまた、家の中のあらゆる窓から庭の緑が臨むことができ、外のフィンランドの自然を感じられることもあり、内と外が親密につながっている空間づくりも施されているなと思いました。あと先生が、北欧建築も木という素材を生かした家づくりが多く、どこか日本の建築と似たようなところがあって親しみやすいであろうとおっしゃっていて、なるほど、だから北欧建築や雑貨が日本人に愛され、遠く離れた国であっても親近感がわくデザインなのであるなと思いました。このような、素朴で地味に思われがちだけど、人に愛されるデザインが、建築においてもいかに大切なことであるかを思い知らされた気がします。ますます北欧デザインのファンになりました。

もちろんフィンランドを出発した後、メインが終わって後は日本に帰るだけ！ではなく、ほかの国々でもたくさん物事を目で見て、体で感じて、いろいろなことを自分に吸収できた旅となりました。同じ志をもった友人たちと

アアルト自邸



もに過ごし、一期一会の良き出会いもあり、ここには書ききれないくらいの盛りだくさんな内容となり、一生忘れられない思い出です。

## 「街」という存在

齋藤拓馬 (3年)

私が今回の研修で感じたのが、「街」に対する考え方の違いです。研修前は日本の街を歩く中で、それなりに感動もしました。しかし、日本に帰ってきてから、同じように街を歩いてみたら、以前のような感動はなく、むしろ愕然としました。それは、こんなにも日本の街並みが汚かったのかということです。

ドイツのフライブルクという街にある、ヴォーバン地区はとても魅力的な場所でした。ここは、ストックホルムの旧市街などといった統一感のある建物が並ぶのではなく、日本でもあるようなさまざまな形をした集合住宅があり、それだけでは統一感がないものの、街としてとらえると、とても完成されているように感じることができます。その大きな要因の一つが緑でしょう。この街でレンズを向けると、その半分以上が緑になるといっても過言ではありません。個人の庭だと思われるスペースに入ると、まるで森に足を踏み入れたかのような感覚に陥りました。そのほかにも、街の中には多くの公園が配置されていたり、小川が流れていたり、自然を意識した計画がとても目につきました。街に住む人の意識も日本に比べてとても高いような気がしました。ほとんどの屋根にソーラーシステムがあることや、カーシェアリングという、複数人で車を共有する制度など、エコや景観を保ちながら存在する「ヴォーバン」に感銘を受けました。

ヨーロッパでは歴史的な街並みや建物が有名ですが、一方で環境に配慮した街が増えてきています。今回の研修では、その代表例ともいえる「ハンマルビー・ショースタッド地区」を訪ねました。そしてこの場所は研修全体を通して、最も興味深い場所となりました。建物のデザインがいいなどではなく、環境に対する考え方に心を奪われました。省エネやゴミの分別、ほかにもさまざまな取り組みがあり、ここに住む人は意識せずとも環境に優しい生活を送ることになります。環境問題を考える上で、こんなにも理想的なことはないと思います。

これからの世界では環境を考えることが非常に大事だと思います。研修旅行に参加して最前線を体験できたことが、今後の自分に大きな影響を与えたことは確かでしょう。

緑の中へ



## 「今日はあなた、明日は私」

中嶋真桜（3年）

8月28日、天気は曇り。風が強くとても寒い日だったと記憶している。ホテルを出発し、私たちが向かったのは世界遺産である「森の墓地」。グンナール・アスプルンドとシーグルド・レヴェレンツによって設計された共同墓地である。バスを降りたら、まず広さと開放感に驚いた。ガイドの「あつこ」さんについていき、まず向かったのは瞑想の丘。丘を階段で上るとあつこさんに「疲れましたか？」と聞かれた。なんでそんなこと聞くのだろう？と不思議に思ったが、どうやらこの階段は上に向かうほど段が低くなっていて、悲しみを背負った人々が少しでも楽に上まで上れるようにと考慮されてつくられたらしい。

丘を下り、墓地へ向かう。歩いている途中、まるで死者が私たちを歓迎してくれているかのように空が晴れてきた。森の中に点々と立っているお墓にはそれぞれ奇麗な花が添えられてあったりして、まったく悲壮感を抱けなかった。日本の墓地とずいぶんイメージが違うのだなとぼんやり考えながら森の中を歩いた。

進んでいくと、ひっそりと建っている森の礼拝堂に到着。門には“遺された者”の言葉「今日はあなた、明日は私」の文字。とても小さい礼拝堂なので2つの班に分かれて中へ入る。床がわずかに棺おけに向かって傾いていたり、椅子の座面の十字架、ありとあらゆる自然の中に存在する「12」という数字を元にした12本の柱など、なるほどと思わせるような設計だった。

そして一番大きな礼拝堂である聖十字架の礼拝堂に移動。まずは待合室に入る。くの字のように少し内側に曲がったベンチや壁の直角部分がすべて丸まっているなど、ここにも悲しみにくれる人々への配慮が見え隠れしていた。続いて礼拝堂へ移動した。ここで、死んだ人間を燃やして灰にするとその人が生まれた時の体重と同じ重さになるということを聞いた。

北欧の人々は「死者は森に還る」という死生観をもっているようだ。この森の墓地はその死生観をうまく表現していると思ったし、なにより大切な人を亡くして悲しんでいる人々に対しての至る所にあるさりげない思いやりがすてきだと思った。人間にとって生と死は逃れることのできないものである。生と死はつながっていないように見えて実はつながっているんだなあと考えさせられた。今回の海外研修旅行で本当にたくさんの建築を見たが、私の心をわしづかみにして離さなかったのはほかでもないこの森の墓地である。ここを見学リストに入れてくださった先生方に感謝。



森の墓地

## ユヴァスキュラと手記のはなし

小林 寛（3年）

### ●アアルトの建築を見にユヴァスキュラへ

最初の国フィンランドのヘルシンキでは自由研修日があり、ほかの人たちはヘルシンキ市内を回るといふ人がほとんどでした。しかしながら、今回の研修旅行でBコースを選んだ理由がアアルトの建築が見たいからということもあり、かなり遠出となるもののアアルト作品が多いユヴァスキュラに行くことを決意し、実際に行ってきました。ですがその道のりは容易ではありませんでした。まず朝5:30起床。昨日寝たのが1時過ぎなので、眠い目を擦りながらヘルシンキ駅へ向かいました。が、日本とはまったく違う切符の買い方に戸惑い、どの電車に乗るか迷い、自分の座席を間違えたり、館内アナウンスはフィンランド語で何を言っているかわからなかったりと、文化と言語の壁に悪戦苦闘しながらも、なんとか片道3時間半以上かけてユヴァスキュラに到着。町中にはフィンランド語が溢れ、一体何が書いてあるのかかわからない中、英語のパンフレットを見つけた時の感動はかなりのものでした。わかる言語があるって素晴らしい。その英語のパンフレットを頼りにユヴァスキュラの街並みを眺めつつ、またユヴァスキュラの労働者会館などのほかのアアルト作品を訪れつつ、アルヴァ・アアルト美術館に到着。アアルトのオリジナルの手書き図面や、作品の模型や解説が展示されており、とても充実した時間を過ごすことができました。また、この一日小旅行で、つたない英語でも伝えたいという気持ちがあれば相手が頑張ってくれて理解しようとしてくれることがわかったので、臆せずどんどん話していこうという気持ちになり、3週間にもわたる長い研修旅行の初日から良い経験ができました。

### ●いつも付けていた手記（雑記帳）

今回の旅行で私は日記兼メモ帳兼スケッチブックというポケットサイズの雑記帳を常に持ち歩いていました。その日起こった出来事を記録し、感じたこと思ったことをメモし、印象に残った空間や物をスケッチする。そうすることで強く頭の中に印象づけられるのだと思います。そしてそれが何ページもたまると、自分だけの一冊の旅行記になり、自分の財産になると思います。なので、海外研修旅行に行く予定の方にはぜひ手記を付けることをオススメしたいです。ちなみに私は建築の外観や内部空間だけでなく、旧市街の街並みや美術館の展示品、宮殿の警備をしている衛兵などもスケッチしていました。



いつも携帯していた手記とBコースのハンドブック

# オリエンテーション報告

山中新太郎



ホキ美術館にて (A コース)



日枝神社にて川越市都市計画課の  
荒牧澄多氏の説明を受ける (D コース)

6月18日(土)に、建築学科2年生を対象としたオリエンテーションが実施されました。これは、建築学科教員のガイディングで建築や町並みなどを見学することによって、専門的な視点から建築を勉強してもらうとともに教員と学生の親睦を深めることを目的に、建築学科で毎年行われている行事です。専門の勉強が本格的にはじまる2年生にとっては、実際の建築を専門の教員とともに見学できる貴重な機会です。

企画されたコースは、右表に示す8コースです。これらのコースには引率する教員の専門性が反映されています。それぞれの専門分野の中で近年注目される題材を選定したり、技術体験ができるようになっていたりしており、各教員が2年生の学生諸君に体験してもらいたい題材を毎年見つけ出して、ひとつひとつのコースを作っています。

A～Fコースは駿河台校舎からの貸し切りバスで、G、Hコースは公共交通機関を利用して見学場所を移動しました。参加人数は2年生が231名、教員が32名、引率学生が55名、合計318名でした。

Fコースでは東京より諏訪方面までバスで移動して、普段ではなかなか見ることができない南信州の建築を見学しました。当日は時折小雨の降るあいにくの天気でしたが、見学先の協力によって各施設では通常見学できないバックヤードや教室、住居部分まで見学することができました。伊那東小学校や澄心寺では、教頭先生や住職の方から建物の使い方などについて直接説明をしていただきました。実際に建物を使用している現場の声を熱心に聞き入っている学生の姿が印象的でした。また、昼食の時には先生や先輩たちとリラックスした雰囲気でのコミュニケーションが図れたと思います。

それぞれのコースに参加した学生の皆さんは、教室を離れ、普段の授業では得られない掛け替えのない体験ができたのではないかと思います。この経験を今後の学習にぜひ生かしてもらいたいと思います。

(2年クラス担任：やまなかしんたろう・助教)

## 〈貸切バスグループ〉

<b>A コース『縦横に伸びるストラクチャーを巡る』</b> ホキ美術館、木材会館、メイキング・オブ・スカイツリー 岡田 章、○宮里直也、廣石秀造
<b>B コース『復元建築物と団地のストック再生技術を見学しよう』</b> 府中市郷土の森博物館、ひばりが丘団地(ストック再生実証実験)、 所沢航空発祥記念館 井上勝夫、池田耕一、○富田隆太、王 岩、半貫敏夫
<b>C コース『世界の有名建築物を知ろう』</b> 東武ワールドスクエア、日光東照宮 三橋博巳、根上彰生、宇沢崎勝也、○川島和彦
<b>D コース『もうひとつの川越』</b> 喜多院、仙波東照宮、日枝神社、川越城本丸御殿、旧山崎家別邸(保岡勝也)、 旧八十五銀行本店(保岡勝也)、日本聖公会キリスト教会、蔵づくりのまちなみ 大川三雄、○重枝 豊、山崎誠子、小島陽子
<b>E コース『山梨の現代建築を巡る』</b> 清春白樺美術館、中村キース・ヘリング美術館、清里フォトミュージアム 今村雅樹、○佐藤慎也
<b>F コース『諏訪の現代建築を巡る』</b> 茅野市民館／美術館(古谷誠章)、湖畔のレストランで昼食、諏訪湖博物館(伊東豊雄)、澄心寺(宮本佳明)、伊那東小学校(みかんぐみ+小野田泰明) 佐藤光彦、○山中新太郎、西脇 梓

## 〈現地集合(公共交通機関利用)グループ〉

<b>G コース『体験ものづくり大工のいす作り』</b> ものづくり大学(四方転びの椅子を製作、夕方はバーベキュー) ○中田善久、秦 一平、清水五郎、飛坂基夫、和美廣喜、中山 優
<b>H コース『大学生の社会見学・日本の伝統芸能と政治の舞台を見る』</b> 国立劇場(大劇場にて歌舞伎鑑賞)、国会議事堂(衆議院)、霞ヶ関ビル 安達俊夫、白井伸明、古橋 剛、山田雅一、石鍋雄一郎、○田嶋和樹

注：○は幹事教員



木材の切断  
(G コース)

## 建築・南極・不動産の研究

## 三橋博巳

## 筆者略歴

- 1968年 日本大学大学院理工学研究科修士課程修了
- 1968年 日本大学理工学部助手，専任講師，助教授を経て，教授。現在に至る
- 1977～79年 第19次日本南極地域観測隊越冬隊員として参加
- 2008年～現在 (社)日本不動産学会会長



研究を振り返ると大学院生の頃に構造力学の研究室(当時斎藤謙次教授，村内明助教授)に入ってからがスタートです。テーマは鉄筋コンクリート梁の実験的研究でしたが，試験体の作成から実験に至るまで自分たちでやっていたことを思い出します。また研究室では，実際の建物の構造設計もやっており，構造計算書や構造図面のお手伝いをする機会が多くありました。さらに，南極昭和基地の観測隊用の建物の設計も当時やっており，貴重な経験となりました。大変忙しい大学院生活で充実していました。これはのちの南極観測隊越冬隊に参加するきっかけともなりました。その後大学に助手として残り，建設省のプロジェクトや委託研究，そして民間との開発研究など数多くの実験を続けてやってきました。

1977年に第19次南極観測隊越冬隊員として参加することになりました。昭和基地では建物周辺の吹きだまり，建物の風圧測定，振動測定など観測を1年間実施しました。越冬生活は貴重な経験となりました。

その後，極地や雪国の研究をすることになり，1979年に帰国後観測データの分析，また，国内でのスキーリゾート地域の超高層マンションの吹きだまり対策のための研究に継がり，実際の建物の風洞実験による研究も数多くやることになりました。成果を論文にまとめ，学会や国際会議などにも発表したことも懐かしい思い出です。また，これらの成果はソ連グルジアの寒冷地の共同住宅の国際コンペに応募し入賞したことからグルジア共和国に2回訪問するきっかけにもなりました。

うれしく，また悲しい思い出があります。ノルウェーのオスロ大学の教授の女性の先生との出会いです。国際会議の後オスロにある建築研究所を訪問し，紹介された教授は初対面でしたが私の国際会議の論文を読んで知っていると言われ，さらに学位論文にも引用しているとのことで，大変うれしい出会いでした。数年後日本の国際会議で来日するはずでしたが，来日直前がんで亡くなったとのことで来日できなかったことがあります。本当に悲しい思い出として私の心に残っています。また，私の論文をシドニー大学のKwak教授等が引用したことをきっかけにシドニー大学との交流につながり，現在も

交流が続いています。南極に関する研究では大変筆者の研究生活においても大きな転機となり，貴重な経験となり，多くの広がりにつながりました。

1985年から建築学科の中に不動産に関する企画経営コースが設置され，私もスタッフの一員として入ることになりました。私の研究は，建物の寿命実態調査や耐用年数の研究です。耐用年数に関連して不動産鑑定評価や家屋の固定資産税評価などの研究に広がっていきました。地球環境の時代となり，都市環境のテーマについても文科省や環境省のプロジェクト研究として環境負荷の軽減，コンパクトシティ，持続可能な都市などの研究を他大学，他学部の経済学，法学，社会学の分野の方々との学際的に研究も行ったことも良い経験となりました。とくに最近ではマンションや建替えの問題についても研究を進めています。

日本不動産学会は1984年に設立され，工学，経済，法律など各分野の研究者と実務者，行政の方々により学際的な研究活動を行ってきました。

本学の大学院の不動産科学専攻においても専任教員として，土地利用や不動産開発等に関する研究と教育により人材育成を続けています。この度の東日本大震災からも，地震，津波など自然災害に対する建物，地域，都市の安全性確保の課題は工学のみならず法学，経済学など学際的な研究が必要不可欠であることを痛感しました。

「少年老いやすく学成り難し」を実感していますが，「研究に終わりはなし」であり，今後も勉学と研究を続けていきたいと思っています。人生何事にも取り組み努力すれば道は拓けると思っています。学生諸君には大きな目標をもって海外にも出て，積極的に行動することを期待しています。

(みつはしひろみ・教授)



第19次隊で建設した地学棟



ペンギンと語る

## 偲ぶ

### 下村幸男



田治見宏先生

1977年から8年間建築学科教室主任を務められた、日本大学名誉教授 田治見宏先生は、本年4月14日に肺炎にてご逝去されました。享年87歳でした。

田治見先生は、1946年東京大学工学部航空学科機体専修（現在の応用数学科）を卒業されました。敗戦により航空関係の世界が閉ざされたことから、同大建築学科の坪井善勝先生の研究室から再出発されました。『駿建』の前身『連子（れんじ）』1964年10月号の「研究の糸口」と題した先生の巻頭言によれば、妹沢波で有名な妹沢克惟先生が書かれた地盤の振動エネルギーの散逸に関する論文を読まれたことや福井地震の被害調査がきっかけとなり、振動学の研究をされるようになられたようです。

田治見先生は1952年理工学部助教授として着任され、1985年3月のご退職まで多くの学生たちの教育・研究指導をなされました。先生は、1959年に「耐震理論に関する基礎的研究」（主査：武藤清）により東京大学博士を授与され、同論文により日本建築学会賞も授与されておられます。理工学部は昨年創立90周年を迎えました。武藤先生は日大建築の創設に尽力された佐野利器先生のお弟子さんです。佐野先生と武藤先生は、関東大地震後の有名な柔剛論争で剛構造の旗頭でした。田治見先生は『建築技術』1999年7月号に、「がんばれ剛構造、がんばれSRC」という寄稿文を書かれています。何か不思議なえにしの糸を感じざるを得ません。

先生の研究面のご業績は、Kanai-Tajimi Spectrum、振動アドミッタンス理論、薄層法……と内外の多くの研究者、実務家に引用、応用されています。他方、先生は代々木のオリンピックプール（設計：丹下健三）をはじめとする多くの特殊な建築物の設計に動特性の解明面で坪井先生に技術協力されています。オリンピックプールは風圧による屋根面の振動を抑えるために、当時では世界に類を見ないダンパーを有する吊屋根構造となっています。その詳細については、当時院生として協力された元教授石丸辰治先生が『駿建』2009年11月号に詳しく書かれています。

また、1965年に出版された『建築振動学』は専門家にも名著として知れ渡っており、教科書、参考書として用

いている大学は今でも少なくありません。なお、田治見先生は、日本建築学会副会長をはじめ官学協会の多くの委員・役員を歴任されました。また、日本建築学会および日本地震工学会の名誉会員であられました。

ご退職後、ご専門の耐震工学、とくに地盤と建物の動的相互作用に関する研究を実施設計に活かすべく、田治見エンジニアリングサービスを立ち上げられても一貫して学究の徒として、多くの研究者、設計者のご指導に当たられました。

私は1969年に卒業研究で先生にご指導を仰ぐようになって以来40年強の永い間、研究面のみならず私的な面でもご指導、薫陶を授かりました。先生のご訃報に触れ、多くの事柄が走馬灯のように駆け巡り、いまだ思い出されてなりません。

百か日を前にした7月17日に、先生に薫陶を受けた研究室卒業生およびご親交のあつかった方々が集い、「お別れ会」が開催されました。当日、「貴重な助言、問題解決の糸口を頂きました」「研究面で夢を与えていただきました」などのお話を学外の多くの方々からお聞きしました。いわゆる田治見理論と称される先生の業績は内外でいまだ燦然と輝いていますが、先生の間人性の温かさ、深さも含めて再認識させられました。

最後に、研究室の先輩 箕輪親宏氏を介して届いた、MITのProf. Kausel（先生とほぼ同時期に成層地盤に対する薄層点加振解を導出）の弔意メールの文末を紹介させていただきます。Although no longer with us, his name and image will continue indelible in our hearts and minds, not to mention as part of well-known named concepts such as the “Kanai-Tajimi spectrum”

先生のご業績とご薫陶に深く敬意と感謝を表すとともに、ご冥福を心よりお祈り申し上げます（合掌）。

（しもむらゆきお・短大教授）

# 2011年度 日本建築学会大会 (関東)

## 建築学科教室関係者発表論文リスト

○印 発表者

### 材料施工

1065 シラン系含浸材とシラン・シロキサン系表面塗布材の併用によるコンクリートの表面改質 その1 実験概要および美観性の評価 ○八木 修 (M&M トレーディング)・中田善久・大塚秀三・上船慎也

1066 シラン系含浸材とシラン・シロキサン系表面塗布材の併用によるコンクリートの表面改質 その2 表面保護性能の評価 ○上船慎也 (総警ビルサービス)・八木 修・中田善久・大塚秀三

1086 コンクリートの吸水性状に基づく乾燥収縮ひずみの早期予測に関する研究 ○久保田英樹 (三友エンジニアリング)・中田善久

1183 高強度コンクリートにおける材料の構成割合と静弾性係数に関する一考察 その1 セメントペーストと細骨材の容積割合の影響 ○春山信人 (フジミ工研)・中田善久・斉藤文士・澤本武博・大塚秀三・女屋英明・田村裕介・毛見虎雄

1186 各種施工要因が金属拡張系あと施工アンカーの引抜き耐力に及ぼす影響 ○杉山正和 (向井建設)・中田善久・大塚秀三・清水良平・植草亮介

1187 高強度コンクリートに施工された金属拡張系あと施工アンカーの引抜き耐力に及ぼす配筋位置の影響 その1 文献調査および実験概要 ○中田善久 (日本大)・大塚秀三・清水良平・杉山正和・植草亮介

1188 高強度コンクリートに施工された金属拡張系あと施工アンカーの引抜き耐力に及ぼす配筋位置の影響 その2 各種配筋による検討 ○清水良平 (旭化成建材)・中田善久・大塚秀三・杉山正和・植草亮介

1190 高性能 AE 減水剤の再添加がコンクリートの諸性質に及ぼす影響 その4 高性能 AE 減水剤の吸着特性 ○西 祐宜 (フローリック)・中田善久・斉藤文士・因幡芳樹

1198 練混ぜにおけるコンクリート用材料の分割投入が高強度コンクリートの品質に及ぼす影響 その1 実験の概要とコンクリート用材料の種類の影響 ○斉藤文士 (内山アドバンス)・中田善久・西 祐宜・宮部義章

1199 練混ぜにおけるコンクリート用材料の分割投入が高強度コンクリートの品質に及ぼす影響 その2 練混ぜ水および高性能 AE 減水剤の分割割合の影響 ○宮部義章 (日本大大学院)・中田善久・斉藤文士・西 祐宜

1316 熔融スラグ骨材を用いたモルタルにおけるポップアウトの発生に関する検討 その1 硬焼生石灰の混入率がモルタル供試体の品質に及ぼす影響 ○須藤絵美 (内山アドバンス)・中田善久・斉藤文士・大塚秀三

1380 コンクリート型枠用合板の転用がコンクリートおよび合板の品質に及ぼす影響 その1 実験概要および合板の品質 ○大辻浩輔 (日本大)・中田善久・大塚秀三・坂本英之・高梨洗平・藏田佳祐

1381 コンクリート型枠用合板の転用がコンクリートおよび合板の品質に及ぼす影響 その2 コンクリートおよび合板表面の品質に及ぼす影響 ○坂本英之 (日本大大学院)・中田善久・大塚秀三・高梨洗平・大辻浩輔・藏田佳祐

1382 コンクリート型枠用合板の転用がコンクリートおよび合板の品質に及ぼす影響 その3 タイル張り下地モルタルの接着強度に及ぼす影響 ○高梨洗平 (ライト工業)・中田善久・大塚秀三・坂本英之・大辻浩輔・藏田佳祐

1384 コンクリート工事における施工体制に関する調査 その1 コンクリートの打込み時における基礎調査 ○松原俊一 (松原組)・大塚秀三・中田善久

1412 温水養生法による模擬柱部材のコア強度の推定に関する実験的研究 その1 温水養生強度と簡易断熱養生強度およびコア強度の関係 ○内田雅之 (埼玉建興)・大塚秀三・中田善久・飛坂基夫・平野修也

1413 温水養生法による模擬柱部材のコア強度の推定に関する実験的研究 その2 温水養生法を応用した構造体強度補正值に関する検討 ○平野修也 (東部建材共同試験所)・大塚秀三・中田善久・飛坂基夫・内田雅之

### 構造 I, II, III, IV

20082 建物形状の工夫による雪の吹きだまり制御に関する実験的研究 ○横山竜大 (日本大大学院)・半貫敏夫

20252 エネルギーマットの釣合に基づく液状化地盤の損傷評価に関する研究 —実地震で生じた沈下のシミュレーション— ○朝枝亮太 (日本大大学院)・安達俊夫・下村修一

20253 直接基礎の上載圧による液状化抑制効果 その1 液状化抑制の原理と遠心力載荷実験の概要 ○小林治男 (大成建設)・船原英樹・柴田景太・長尾俊昌・安達俊夫

20254 直接基礎の上載圧による液状化抑制効果 その2 遠心力載荷実験における液状化抑制効果 ○船原英樹 (大成建設)・小林治男・柴田景太・長尾俊昌・安達俊夫

20267 高軸力下における杭頭半剛接合法の構造性能に関する研究 その4 シリーズ2の実験結果 ○堀井良浩 (大成建設)・青島一樹・小林治男・安達俊夫

20268 高軸力下における杭頭半剛接合法の構造性能に関する研究 その5 杭頭部の耐力評価 ○青島一樹 (大成建設)・堀井良浩・小林治男・安達俊夫

20277 セメント安定処理粘土の強度・変形特性 —一軸圧縮強度の評価方法— ○山田雅一 (日本大)・安達俊夫

20279 減衰ブロック材の繰り返し変形および三軸圧縮特性 ○藤川智樹 (日本大大学院)・酒匂教明・下村幸男・川村政史

20300 摩擦音を利用したスウェーデン式サウンディング試験に関する実験的研究 その2 粒径と音圧レベルの関係 ○酒匂教明 (日本大短大)・塩川博義・下村幸男・川村政史

20307 背面梁を有する擁壁の耐震性能に関する研究 その4 乾燥砂地盤による地震時を模擬した模型実験 ○野口学(日本大)・佐藤秀人・鹿糠嘉津博

20355 複層式ジオデシック・テンポラリドームの構造特性に関する基礎的研究 その1 構造システムの提案と自重時の挙動について ○小宮圭太(日本大大学院)・岡田章・宮里直也・道下祐貴・斎藤公男

20356 複層式ジオデシック・テンポラリドームの構造特性に関する基礎的研究 その2 ガタつきを考慮した数値解析的検討 ○道下祐貴(鹿島建設)・岡田章・宮里直也・小宮圭太・斎藤公男

20372 ハイブリッド・ガラス・ビームの構造部材への適用性に関する研究 ープレストレスを利用したガラス構造の提案と実用性の検証ー その1 小規模実験による変形・応力制御効果の検討 ○野本圭祐(日本大大学院)・岡田章・宮里直也・三宅由祐・斎藤公男

20373 ハイブリッド・ガラス・ビームの構造部材への適用性に関する研究 ープレストレスを利用したガラス構造の提案と実用性の検証ー その2 ガラス破損時の性能把握と実大規模実験による実用性の検討 ○三宅由祐(山下設計)・岡田章・宮里直也・野本圭祐・斎藤公男

20401 乱流境界層流中におけるホルン型張力膜構造の風洞実験および応答解析 その1 閉鎖型モデルの風圧係数分布性状 ○榎紀佳(日本大大学院)・岡田章・神田亮・宮里直也・永井佑季・斎藤公男

20402 乱流境界層流中におけるホルン型張力膜構造の風洞実験および応答解析 その2 開放型モデルの風圧係数分布性状 ○小澤恭平(日本大大学院)・岡田章・神田亮・宮里直也・永井佑季・斎藤公男

20403 乱流境界層流中におけるホルン型張力膜構造の風洞実験および応答解析 その3 風圧係数分布に及ぼす乱れ強さの影響 ○松本良太(日本大大学院)・岡田章・宮里直也・永井佑季・斎藤公男

20404 乱流境界層流中におけるホルン型張力膜構造の風洞実験および応答解析 その4 静的及び動的応答解析結果の比較 ○永井佑季(日本大大学院)・岡田章・神田亮・宮里直也・斎藤公男

20405 ETFEフィルムを用いたばねストラット式張力膜構造の風荷重時の構造挙動に関する研究 その1 柔模型を用いた風洞実験の実施 ○福井直輝(NTTファシリティーズ)・岡田章・宮里直也・松田歩弓・斎藤公男

20406 ETFEフィルムを用いたばねストラット式張力膜構造の風荷重時の構造挙動に関する研究 その2 ストラットのばね剛性を考慮した初期導入応力の設定について ○松田歩弓(日本大大学院)・岡田章・宮里直也・福井直輝・斎藤公男

20410 ビーム式空気膜構造の強風時における最適設定内圧に関する基礎的研究 その1 低内圧時における基本的構造特性の把握 ○鍋木雄太(日本大大学院)・岡田章・宮里直也・神崎聡美・斎藤公男

20411 ビーム式空気膜構造の強風時における最適設定内圧に関する基礎的研究 その2 静的風荷重時の検討及び最適内圧設定フローの提案 ○神崎聡美(大成建設)・岡田章・宮里直也・鍋木雄太・斎藤公男

20412 HP張力膜をハイブリッド化したテンセグリック・トラス(Type I)の基本的構造特性に関する研究 その1 HP膜テンセグリック・トラスの提案および数値的解析の妥当性の検討 ○工藤智之(日本大大学院)・岡田章・宮里直也・安田真弓・斎藤公男

20413 HP張力膜をハイブリッド化したテンセグリック・トラス(Type I)の基本的構造特性に関する研究 その2

提案システムの構造特性に関する数値解析的検討 ○安田真弓(長谷川大輔構造計画)・岡田章・宮里直也・工藤智之・斎藤公男

20414 テンセグリック・タワーの張力消失時における動的挙動に関する基礎的研究 その1 テンセグリック・タワーの基本構造コンセプト ○安並卓嗣(竹中工務店)・岡田章・宮里直也・赤星博仁・熊坂まい・斎藤公男

20415 テンセグリック・タワーの張力消失時における動的挙動に関する基礎的研究 その2 小規模実験による基本性能の把握 ○熊坂まい(日本大大学院)・岡田章・宮里直也・安並卓嗣・赤星博仁・斎藤公男

20416 テンセグリック・タワーの張力消失時における動的挙動に関する基礎的研究 その3 大規模振動実験による振動特性の把握 ○赤星博仁(日本大大学院)・岡田章・宮里直也・安並卓嗣・熊坂まい・斎藤公男

21096 地形・地盤条件に着目した事業継続性の評価に関する研究 その3 2004年新潟県中越地震における被害調査結果 ○新山龍(日本大大学院)・安達俊夫・宮村正光・太田宏

21097 地形・地盤条件に着目した事業継続性の評価に関する研究 その4 事業中断日数と微地形の関係 ○太田宏(日本大大学院)・安達俊夫・宮村正光・新山龍

21129 梁降伏型骨組における不可避的損傷集中についての検討 ○石鍋雄一郎(日本大)・半貫敏夫・秋山宏

21279 非線形粘性ダンパーを含む免震層の簡便な応答予測法 その2 エネルギーの釣合いに基づく応答予測曲線 ○渡邊信也(NTTファシリティーズ)・山崎久雄・石鍋雄一郎・高山峯夫・笠井和彦

21360 D.M.を用いた連結制震に関する基礎的研究 その1 MC型の最適設計式 ○荻野瑛(織本構造設計)・古橋剛・油野球子・押山育未

21361 D.M.を用いた連結制震に関する基礎的研究 その2 基本系CK型、MCK型の最適設計式と振動実験 ○押山育未(日本大大学院)・古橋剛・油野球子・荻野瑛

21362 D.M.を用いた連結制震に関する基礎的研究 その3 性能図表を用いた多質点系の最適設計 ○油野球子(清水建設)・古橋剛・荻野瑛・押山育未

21363 擬似モード制御によるD.M.同調システムに関する研究 その1 擬似モード制御手法 ○廣谷直也(日本大大学院)・石丸辰治・秦一平・古橋剛・増井智彰

21364 擬似モード制御によるD.M.同調システムに関する研究 その2 取付け部剛性を考慮した擬似モード制御 ○増井智彰(日本大大学院)・石丸辰治・秦一平・古橋剛・廣谷直也

21365 層剛性低減によるD.M.モード制御に関する基礎的研究 その1 解析的検証 ○森川和彦(清水建設)・石丸辰治・古橋剛・秦一平・公塚正行・松井和幸

21366 層剛性低減によるD.M.モード制御に関する基礎的研究 その2 振動実験による制震性能の検証 ○松井和幸(清水建設)・石丸辰治・秦一平・古橋剛・公塚正行・森川和彦・柳崎尚輝

21367 鉄塔構造物に適用する制震工法の研究 その6 立体フレームモデルによる制震システムの検討 ○浅井剛(日本大大学院)・石丸辰治・秦一平・真下貢・荻原実・公塚正行・宮島洋平・中澤史成・増井智彰

21368 鉄塔構造物に適用する制震工法の研究 その7 パンタグラフ式D.M.同調システムの性能確認実験 ○荻原実(東電設計)・石丸辰治・秦一平・真下貢・公塚正行・宮島洋平・中澤史成・浅井剛・増井智彰

21369 擬似モード制御を利用したBMDシステムに関する基礎的研究 その1 BMDシステムの適用範囲指標 ○稀代康平(日本大大学院)・石丸辰治・秦一平・古橋剛・公塚正行・

松井和幸・森川和彦・柳崎尚輝

21370 擬似モード制御を利用したBMDシステムに関する基礎的研究 その2 BMDシステムの最適設計法 ○郭鈞桓(日本大大学院)・石丸辰治・秦 一平・古橋 剛・公塚正行・松井和幸・森川和彦・柳崎尚輝

21371 擬似モード制御を利用したBMDシステムに関する基礎的研究 その3 8層せん断型モデル試験体による振動実験 ○柳崎尚輝(日本大)・石丸辰治・秦 一平・古橋 剛・公塚正行・前林和彦・松井和幸・森川和彦・黄 國杰

22036 木造面格子壁を用いた簡易耐震シェルターの構造設計手法に関する研究 その1 簡易耐震シェルターの基本コンセプトと設計荷重の把握 ○宮城島丈司(桂設計)・岡田 章・宮里直也・寺田直人・斎藤公男

22037 木造面格子壁を用いた簡易耐震シェルターの構造設計手法に関する研究 その2 靱性型面格子壁の構造性能 ○細山輝明(日本大大学院)・岡田 章・宮里直也・宮城島丈司・寺田直人・斎藤公男

22038 木造面格子壁を用いた簡易耐震シェルターの構造設計手法に関する研究 その3 構造設計手法の提案 ○小笠原康介(日本大大学院)・岡田 章・宮里直也・宮城島丈司・寺田直人・斎藤公男

22039 木造面格子壁を用いた簡易耐震シェルターの構造設計手法に関する研究 その4 相欠接合部の間隙による影響 ○宮田脩平(日本大大学院)・岡田 章・宮里直也・宮城島丈司・寺田直人・斎藤公男

22040 木造面格子壁を用いた簡易耐震シェルターの構造設計手法に関する研究 その5 実規模振動実験 ○寺田直人(日本大大学院)・岡田 章・宮里直也・宮城島丈司・斎藤公男

22328 薄肉鋼板で構成されるH形断面梁の貫通孔補強方法の検討 その1 静的載荷試験概要 ○千葉光平(日本大大学院)・小野泰弘・新井佑一郎・石鍋雄一郎・半貫敏夫・千田 光

22329 薄肉鋼板で構成されるH形断面梁の貫通孔補強方法の検討 その2 ウェブ貫通孔が強度に及ぼす影響 ○新井佑一郎(日本大)・千葉光平・小野泰弘・石鍋雄一郎・半貫敏夫・千田 光

22330 薄肉鋼板で構成されるH形断面梁の貫通孔補強方法の検討 その3 ウェブ貫通孔の補強効果 ○小野泰弘(日本大大学院)・千葉光平・新井佑一郎・石鍋雄一郎・半貫敏夫・千田 光

22334 構造用ケーブルの降伏後の材料特性の把握と評価について その1 スtrandロープとスパイラルロープの材料特性の把握 ○栗田 基(JFEエンジニアリング)・岡田 章・宮里直也・久保山 武・斎藤公男

22335 構造用ケーブルの降伏後の材料特性の把握と評価について その2 素線単体とケーブルの材料特性の比較 ○久保山 武(日本大大学院)・岡田 章・宮里直也・栗田 基・斎藤公男

22397 新しい柱脚支持機構を有する鉄骨ラーメン架構の保有水平耐力評価 ○木村祥裕(長崎大大学院)・金田勝徳・和田 章

22438 繰返し荷重を受けるH形鋼筋違材の実験的研究 その1 実験概要 ○竹ノ谷幸宏(日本大大学院)・赤羽正寛・石鍋雄一郎・新井佑一郎・半貫敏夫・秋山 宏

22439 繰返し荷重を受けるH形鋼筋違材の実験的研究 その2 実験結果 ○赤羽正寛(日本大大学院)・竹ノ谷幸宏・石鍋雄一郎・新井佑一郎・半貫敏夫・秋山 宏

22473 全層梁降伏型メカニズムを形成する柱脚機構を有する部分架構モデルの繰返し載荷実験 その1 実験概要 ○高橋邦広(構造計画プラスワン)・金田勝徳・木村祥裕・六倉賢太・

角屋治克・渡辺 亨

22474 全層梁降伏型メカニズムを形成する柱脚機構を有する部分架構モデルの繰返し載荷実験 その2 従来型柱脚との比較 ○渡辺 亨(岡部)・木村祥裕・六倉賢太・金田勝徳・角屋治克・高橋邦広

22475 全層梁降伏型メカニズムを形成する柱脚機構を有する部分架構モデルの繰返し載荷実験 その3 改良型柱脚の力学的挙動 ○六倉賢太(長崎大)・木村祥裕・金田勝徳・角屋治克・渡辺 亨・高橋邦広

22524 切欠き入り引張試験データに基づく鋼材の靱性評価方法に関する研究 ○清水俊介(東京電力)・新井佑一郎・半貫敏夫・秋山 宏

22621 再生骨材コンクリートを用いた合成構造柱の圧縮試験 その3 実大試験体の中心圧縮性状 ○小松 博(日本大)・藤本利昭・櫻田智之・三橋博巳

23112 収縮・クリープを考慮したFEMによるRC柱の長期・短期性能評価に関する研究 その1 RC柱の収縮・クリープ解析モデルの構築 ○秋山洋輔(日本大大学院)・堀川真之・田嶋和樹・白井伸明

23113 収縮・クリープを考慮したFEMによるRC柱の長期・短期性能評価に関する研究 その2 収縮・クリープを考慮したRC柱の短期解析 ○堀川真之(茨城県庁)・秋山洋輔・田嶋和樹・白井伸明

23114 損傷スペクトルおよびファイバー解析に基づくRC造建物の損傷評価に関する研究 その1 RC造建物の全体損傷の評価と検証実験の概要 ○西尾 淳(日本大大学院)・河井慎太郎・伊藤 唯・田嶋和樹・白井伸明

23115 損傷スペクトルおよびファイバー解析に基づくRC造建物の損傷評価に関する研究 その2 ファイバー法による既存RC造建物の非線形静的単調および繰り返し解析 ○河井慎太郎(日本大大学院)・西尾 淳・伊藤 唯・田嶋和樹・白井伸明

23116 損傷スペクトルおよびファイバー解析に基づくRC造建物の損傷評価に関する研究 その3 モデル建物の地震応答解析による損傷スペクトルの検証 ○伊藤 唯(三菱電機)・河井慎太郎・西尾 淳・田嶋和樹・白井伸明

23117 腰壁・袖壁を有するRC造骨組構造の耐震診断結果の検証 その1 袖壁付柱のせん断終局強度に関する既存式の検証 ○橋本 拓(日本大大学院)・北野由樹・田嶋和樹・白井伸明

23118 腰壁・袖壁を有するRC造骨組構造の耐震診断結果の検証 その2 FEM解析結果に基づく袖壁付柱の反曲点高さの検討 ○北野由樹(鹿島建設)・橋本 拓・田嶋和樹・白井伸明

23119 FEMに基づく全体曲げ降伏する補強後RC骨組の耐力略算法の構築 その1 解析対象実験の概要およびFEM解析モデルの構築 ○小林 仁(日本大)・伊東大地・白井伸明・田嶋和樹

23120 FEMに基づく全体曲げ降伏する補強後RC骨組の耐力略算法の構築 その2 抵抗機構の解明と耐力略算法の構築 ○伊東大地(日本大大学院)・小林 仁・白井伸明・田嶋和樹

## 環境工学 I, II

40003 残響下における誘導鈴の方向定位についての主観評価実験 誘導鈴の移動支援設備としての性能評価に関する検討 その1 ○須見勇太(日本大大学院)・岡田芳明・橋本 修

40004 残響下における方向定位の知覚精度の簡易評価法 誘導鈴の移動支援設備としての性能評価に関する検討 その2 ○岡田芳明(日本大大学院)・橋本 修

40014 継続的な運動トレーニングが脊髄損傷者の温熱環境適応能力に及ぼす影響 —その5 運動トレーニング開始後30ヶ月間の頸髄損傷者の調査結果について— ○今西理恵(日本大大学院)・三上功生・青木和夫・蜂巢浩生・松本 敬・五十嵐博之

40015 継続的な運動トレーニングが脊髄損傷者の温熱環境適応能力に及ぼす影響 —その6 運動トレーニング開始後24ヶ月間の胸髄損傷者の調査結果について— ○五十嵐博之(日本大大学院)・三上功生・青木和夫・蜂巢浩生・松本 敬・今西理恵

40016 継続的な運動トレーニングが脊髄損傷者の温熱環境適応能力に及ぼす影響 —その7 運動トレーニング開始後30ヶ月間の腰髄損傷者の調査結果について— ○松本 敬(斎久工業)・三上功生・青木和夫・蜂巢浩生・今西理恵・五十嵐博之

40093 一辺が傾斜した長方形スラブの一次固有振動数の算定 ○鈴木俊男(淡路技建)・井上勝夫

40101 乾式二重床における重量床衝撃音の改善方法の検討 乾式二重床構造の床衝撃音遮断性能に関する実験的検討 その3 ○狩野桂佑(日本大大学院)・井上勝夫・富田隆太・平光厚雄・稲留康一・中澤真司

40102 床衝撃音レベル低減量の再現性に関する検討 乾式二重床構造の床衝撃音遮断性能に関する実験的検討 その4 ○平光厚雄(建築研究所)・稲留康一・中澤真司・狩野桂佑・富田隆太・井上勝夫

40106 中国北京市における集合住宅の音環境に関する意識調査 ○金 舟(日本大大学院)・井上勝夫・富田隆太

40171 木造家屋における環境振動調査 その1 調査概要 ○川久保政茂(円石コンサルタント)・富田隆太・石橋敏久

40181 衝撃振動の回数及び衝撃間隔が人の振動評価に与える影響 床振動測定用標準衝撃源としてのボールの有用性に関する研究: その8 ○富田隆太(日本大)・井上勝夫

40182 鉛直振動の感覚評価に姿勢の変化が及ぼす影響について 床振動測定用標準衝撃源としてのボールの有用性に関する研究: その9 ○井田啓介(日本大大学院)・井上勝夫・富田隆太

40415 地域エネルギーセンターとしての多機能ガソリンスタンド 一災害時地域センターとしての活用可能性検討— ○金島正治(日本大)

40499 超長期住宅先導的モデル事業対象マンションにおける環境実態調査 ○王 岩(日本大)・吉野泰子

40563 重要文化財に対するバッファゾーン設定に関する提案 ○吉野泰子(日本大)・王 岩

40564 居住環境における健康維持増進に関する研究 その37 居住環境と児童の健康障害との関連性に関する調査研究(11) アレルギー性疾患と居住環境との関連性についてのアンケート調査(Phase2)によるダンプネスと健康影響の分析 ○吉野 博(東北大学)・長谷川兼一・安藤直也・阿部恵子・池田耕一・加藤則子・熊谷一清・三田村輝章・柳 宇・浜田健佑

40565 居住環境における健康維持増進に関する研究 その38 居住環境と児童の健康障害との関連性に関する調査研究(12) 住宅の室内環境に起因する健康影響に関する実測調査(Phase3)の温湿度と微生物濃度の分析結果 ○浜田健佑(東北大大学院)・吉野 博・長谷川兼一・阿部恵子・池田耕一・加藤則子・熊谷一清・三田村輝章・柳 宇・安藤直也

40566 居住環境における健康維持増進に関する研究 その39 居住環境と児童の健康障害との関連性に関する調査研究(13) 住宅の室内環境に起因する健康影響に関する実測調査(Phase3)の結果を用いた共分散構造分析の試み ○角川篤史(名古屋大大学院)・長谷川兼一・吉野 博・阿部恵子・池田耕一・

加藤則子・熊谷一清・三田村輝章・柳 宇・安藤直也・浜田健佑

40579 密閉化された床下構造の浸水被害と室内環境への影響に関する研究 その1 研究概要と対策状況に関するヒアリング調査 ○大澤元毅(国立保健医療科学院)・鍵 直樹・東賢一・池田耕一・長谷川兼一・柳 宇

40580 密閉化された床下構造の浸水被害と室内環境への影響に関する研究 その2 被災地域における保健所の対応状況と居住環境に関するアンケート調査 ○東 賢一(近畿大)・池田耕一・鍵 直樹・柳 宇・長谷川兼一・大澤元毅

41332 建築物の環境衛生と省エネルギーのあり方に関する研究 その5 アンケート調査による事務用途の空気環境と空調設備の関連性に関する検討 ○田島昌樹(国立保健医療科学院)・射場本忠彦・百田真史・大澤元毅・鍵 直樹・久合田由美・常磐憲毅・池田耕一・柳 宇

41333 建築物の環境衛生と省エネルギーのあり方に関する研究 その6 東京都における特定建築物立入検査データの空気環境測定値に関する解析 ○百田真史(東京電機大)・大澤元毅・射場本忠彦・鍵 直樹・田島昌樹・柳 宇・池田耕一・久合田由美・常磐憲毅

41334 建築物の環境衛生と省エネルギーのあり方に関する研究 その7 代表事務所ビル2件における温度および湿度環境の解析 ○常磐憲毅(東京電機大大学院)・大澤元毅・射場本忠彦・百田真史・鍵 直樹・田島昌樹・久合田由美・池田耕一・柳 宇

41415 地下街における二酸化炭素温度と外気の流入に関する調査研究 ○増川智聡(日本大大学院)・熊田和章・池田耕一・大澤元毅・鍵 直樹・柳 宇

## 建築計画 I, II

5021 公共空間におけるアート作品に関する研究 再開発計画により設置されたパブリックアートを通して ○馬淵かなみ(日本大大学院)・佐藤慎也

5026 劇場外演劇における上演空間の研究 ○藤井さゆり(フリーランス)・佐藤慎也

5030 公立文化ホールの改修費用の実態調査 —1980年以前に開館し、1000席以上の客席数のものを対象として(その6)— ○坂根 奨(京都市大)・前田明継・竹内勇輝・藤田 怜・勝又英明・本杉省三

5031 劇場・ホールにおける建設工事費の分析 —1960年以降に開館した全国公共ホールを対象として— ○前田明継(京都市大)・加藤朝映・竹内勇輝・藤田 怜・勝又英明・本杉省三

5041 児童閲覧室の構成について 公共図書館の児童閲覧室の計画に関する研究 その1 ○中島和亮(清水建設)・佐藤 嵩・波辺富雄

5042 おはなし室の利用形態について公共図書館の児童閲覧室の計画に関する研究 その2 ○佐藤 嵩(日本大)・中島和亮・野村雄一郎・波辺富雄

5049 保育園の建物および使用方法に関する実態調査 保育園における保育室内の音環境の実態に関する研究(その1) ○中山 萌(アイジーコンサルティング)・井上勝夫・富田隆太・吉澤玲児

5050 園児の主要活動時における発生音特性 保育園における保育室内の音環境の実態に関する研究(その2) ○吉澤玲児(日本大大学院)・井上勝夫・富田隆太・中山 萌

5100 高齢者福祉施設のあかり要素が環境心理評価に与える影響 ○平田哲也(日本大)・八藤後 猛・野村 歡

5146 近年の公共体育館の施設傾向についての一考察 雑誌『月刊体育施設1995年~2010年』に掲載された施設事例

にして ○大平 渉 (日本大)・渡辺富雄・矢野裕芳

5148 夏季オリンピック・メインスタジアムの後利用に関する研究 その1 国立霞ヶ丘競技場における開催種目の実態調査より ○矢野裕芳 (日本大)・渡辺富雄・若色峰郎

5232 小学校建替に伴う、児童からみた新旧校舎の印象変化について 一児童生徒アンケート調査を通して、新校舎、旧校舎の印象の違いの分析一 ○山本崇嗣 (日本大大学院)・本杉省三

5345 生活行動及び転倒に関するアンケート調査と試験体の検討 住空間における居住性能からみた床仕上げ材の適正弾性に関する検討 その1 ○森本千早 (日本大大学院)・井上勝夫・富田隆太・長島明日香

5346 軽量床衝撃音遮断性能、転倒時の安全性、歩行感覚評価からみた検討 住空間における居住性能からみた床仕上げ材の適正弾性に関する検討 その2 ○長島明日香 (フリーランス)・井上勝夫・富田隆太・森本千早

5429 建築空間の左右の違いが人の行動に与える影響  
○関口優子 (フリーランス)・井上勝夫・富田隆太

5506 創造活動を行う施設の運営と利用に関する研究  
○佐脇三乃里 (黄金町エリアマネジメントセンター)・佐藤慎也

5530 西安の居住区における 1950 年代の集合住宅の保全に関する研究 西安交通大学・韓森寨 29 街坊を対象として  
○丸 史明 (日本大大学院)・宇杉和夫

5674 「住み開き」の活動と場に関する研究 ○坂上翔子 (野村リビングサポート)・佐藤慎也

## 農村計画

6019 中山間地域における廃校活用後の体験交流施設が地域で果たす役割に関する研究 八戸市青葉湖展望交流施設「山の楽校」を事例として ○真部尚美 (日本大大学院)・川島和彦・川鍋充範

## 都市計画

7034 歴史的建造物の短期活用を契機とした持続的活用に向けた取り組みに関する研究 愛知県半田市および奈良県橿原市今井町を事例として ○池田 智 (日本大)・川島和彦・濱津徹平

7110 街路空間条件に応じた景観グリーンチェーンの構築に関する研究 その1 有識者の視点から捉えた住宅地街路緑地イメージの把握 ○平出崇文 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・押田佳子・板里卓哉

7111 街路空間条件に応じた景観グリーンチェーンの構築に関する研究 その2 来訪者の視点から捉えた住宅地街路緑地イメージの把握 ○板里卓哉 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・押田佳子・平出崇文

7117 東京都心部における公開空地等と都市公園の接続面の空間実態に関する研究 ○山崎正樹 (森ビル)・根上彰生

7139 重要伝統的建造物群保存地区における建築物等の現状変更に関する研究 その1 現状変更に関する基準の改正の全国的動向 ○三觜康平 (日本大)・濱津徹平・川島和彦・織戸歩実・宮里翔悟

7140 重要伝統的建造物群保存地区における建築物等の現状変更に関する研究 その2 奈良井地区の町並み保存における行政・設計士・所有者の連携 ○濱津徹平 (日本大大学院)・三觜康平・川島和彦・織戸歩実・宮里翔悟

7143 持続可能な景観まちづくりに関する研究 その1 恵那市岩村町富田地区の景観形成過程と景観的価値構造 ○川島

正嵩 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・馬上和祥

7144 持続可能な景観まちづくりに関する研究 その2 岐阜県恵那市岩村町富田地区の景観形成要因 ○馬上和祥 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・川島正嵩

7168 近代以降における鎌倉観光の変遷に関する研究 その1 江ノ島電鉄開通に伴う観光形態について ○瀬畑尚紘 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・押田佳子・清永修平

7169 近代以降における鎌倉観光の変遷に関する研究 その2 鎌倉市内に敷設された全4路線に着目して ○清永修平 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・押田佳子・瀬畑尚紘

7189 韓国南部地域(慶尚南道)の地域景観構成と郷校の空間構成について ○大杉 亮 (日本大)・宇杉和夫

7224 都心型漁業を核としたまちづくりのあり方に関する研究 その1 海老取川の利用形態の変遷 ○新宅将志 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・中島誠二・伊藤貴弘

7225 都心型漁業を核としたまちづくりのあり方に関する研究 その2 行政資料にみる多摩川河口部および海老取川地域の整備方針 ○伊藤貴弘 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・中島誠二・新宅将志

7226 都心型漁業を核としたまちづくりのあり方に関する研究 その3 大田浦(大森浦・羽田浦)観光プロジェクトの提案と枠組み ○中島誠二 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・伊藤貴弘・新宅将志

7357 東北タイの地形条件とクメール遺跡の立地と境内空間の方位に関する研究 ダンレック山脈・ムン川流域が構成する東西軸との関係 ○宇杉和夫 (日本大)

7456 景観まちづくりに関する景観教育のあり方に関する研究 その1 景観まちづくり学習における活動内容 ○永井浩貴 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・遠藤克則

7457 景観まちづくりに関する景観教育のあり方に関する研究 その2 景観まちづくり学習における協働経緯および協働者 ○遠藤克則 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・永井浩貴

7496 地方都市におけるまちなか居住推進のための空き家情報提供制度に関する研究・その1 制度の特徴と運用上の課題の分析 ○米山隆晃 (日本大)・川島和彦・川鍋充範

7497 地方都市におけるまちなか居住推進のための空き家情報提供制度に関する研究・その2 空き家情報収集方法および移住促進方策の実態 ○川鍋充範 (日本大大学院)・川島和彦・米山隆晃

7518 地方都市における「減築」を活用した賑わい創出に関する研究 その1 「減築」の類似事例における「整備形態」および「整備方針」 ○清水裕章 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・谷口博城

7519 地方都市における「減築」を活用した賑わい創出に関する研究 その2 「減築」の類似事例における「空間整備の経緯」 ○谷口博城 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・清水裕章

7540 まちづくり条例にもとづく住民主体の住環境形成に関する研究 横浜市を事例として ○高瀬治郎 (ホットマン)・川島和彦

## 建築社会システム

8013 都市における水域の不動産的価値に関する研究 その1 港湾区域における新型案件の水域占用料について ○石山拓実 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・加藤悠大

8014 都市における水域の不動産的価値に関する研究 ○加藤悠大 (日本大大学院)・横内憲久・岡田智秀・石山拓実

8111 アンケート調査による支援制度を利用したまちづくりの成果と実態 助成財団による住まい・まちづくりの支援制度に関する研究 その1 ○長島早枝子(日本大大学院)・森實幸子・山中新太郎

8112 支援制度を利用したまちづくり事例の検証と考察 助成財団による住まい・まちづくりの支援制度に関する研究 その2 ○森實幸子(デジミホ)・長島早枝子・山中新太郎

8163 東京圏における既存建物を活用した高齢者専用賃貸住宅の運営実態と改修方法に関する研究 ○大岡亜沙美(小田急不動産)・川島和彦

## 建築歴史・意匠

9173 山越邦彦の「欧州の新しい住宅観」について 山越邦彦研究・その7 ○矢代眞己(日本大短大)・梅宮弘光

9174 山越邦彦のドキュメンテーション活動とそのモダニズム思想 山越邦彦研究・その8 ○梅宮弘光(神戸大)・矢代眞己

9177 米国家建築家コラムの城郭保存に関する論説の内容と価値について 在日期間の記事報告中心にして ○王 軍(日本大)・重枝 豊

9215 17世紀末から18世紀におけるディンの平面構成について ディン・トーハとディン・ハンケンの分析を中心として ○大山亜紀子(日本大)・重枝 豊

9321 妙喜庵待庵における南側壁面の「小壁」に関する一考察 模型を用いた茶室採光の実証的研究 その1 ○中村林太郎(日本大)・重枝 豊

9380 ルートヴィヒ・ヒルバースアイマーの「キャビン型寝室」について ツァイレンパウ形式のジードルンクにおける住戸平面の近代化 その3 ○田所辰之助(日本大)

## 建築デザイン

14020 Kamaboko Curtain 蒲鉾板を用いた空間の創出 ○池上晃司(日本大大学院)・鈴木康二郎・森本栄貴

14026 人力でつくるテンポラリー・スペース ジオデシック・アルミドームの構造デザイン ○斎藤公男(日本大)・岡田

## 章・宮里直也

14027 「百年の風」をデザインする 「ステンレスによるテンセグリック・タワーの制作と施工」 ○秋山 孝(多摩美術大)・斎藤公男・高田清太郎・岡田 章・宮里直也

14031 富士山五合目再生 文化的景観形成を目指した観光拠点施設の設計 ○榎垣幸志(日本大大学院)・酒井 誠・永嶋竜一・山中新太郎

14058 農業と建築の融合を目指した次世代型農業研究学習センターの提案 ○松本晃一(日本大大学院)・山 達郎・三平奏子・山中新太郎

14063 伊豆・下田における「まち遺産」の活用 その1 旧町に残る伊豆石建築物について ○三平奏子(日本大大学院)・酒井 誠・榎垣幸志・落合正行・山中新太郎

14064 伊豆・下田における「まち遺産」の活用 その2 伊豆石建築物の構造補強について ○滝 英規(滝一級構造研究室)・山 達郎・三平奏子・落合正行・山中新太郎

14065 伊豆・下田における「まち遺産」の活用 その3 旧澤村邸の改修事例について ○落合正行(PEA...)・三平奏子・榎垣幸志・滝 英規・山中新太郎

14076 日本大学理工学部駿河台校舎5号館免震レトロフィット ○広瀬景一(清水建設)・今村雅樹・湯山康樹

14102 Ocean View Hospice 葉山・緩和ケア医療(ホスピス)の計画と設計 ○野村雄一郎(日本大大学院)・渡辺富雄

14118 日本大学理工学部新サークル棟の設計とその利用 その1 ○山中新太郎(日本大)・永田健二・永嶋竜一・松本晃一・今村雅樹

14119 日本大学理工学部新サークル棟の設計とその利用 その2 ○永嶋竜一(日本大大学院)・永田健二・松本晃一・山中新太郎・今村雅樹

14121 川風を呼ぶところ ○大西 慧(日本大大学院)・菅原 遼・横内憲久・岡田智秀

14122 NGP Project ○鈴木大志(日本大大学院)・山本貴嗣・一木拓太・本杉省三

14130 1000mのエンガワ 公共施設を街に介入させプラットフォームとする計画 ○鈴木大介(日本大大学院)

■大野博史非常勤講師(オーノ JAPAN, 若色研'99年度修了)の「Ring Around a Tree(ふじようちえん増築)」が、「第6回日本構造デザイン賞」(主催:日本構造家倶楽部)を受賞した(表紙写真参照)。この賞は、建築設計の分野で優れた成果を発揮した構造設計者を顕彰するもの。

■中田捷夫氏(中田捷夫研究室,'65年度修了)、宇野享氏、赤松佳珠子氏、小嶋一浩氏、伊藤恭行氏(シーラカンズアンドアソシエイツ)、高間三郎氏(科学応用冷暖研究所)、柳澤要氏(千葉大学)の「幕張インターナショナルスクール」が、「2011年日本建築学会作品選奨」を受賞した。

■小石川正男短大教授、坂塚裕梨短大助手、高田康史短大副手連名の「継愛す

## 教室ぷろむなード

る街園—古河が育てる園づくり—」が、「第13回日本建築学会東支部提案競技 美しくまちをつくる、むらをつくる 最優秀賞」(主催:日本建築学会関東支部)を受賞した。「風格を古河の街に展開する」をテーマに提案が求められた。また、池田智君、真部尚美さん、吉野祐太君(川島研M1)、米山隆晃君(同4年)の「祭から広がる古河の風格」が、「同 古河市長賞」を受賞した。

■佐藤光彦教授、内山晃一君、渋谷舞さん(佐藤光彦研M1)、小笠原隼君、丹

下幸太君、塚越望さん、藤本陽介君(同4年)が、「小石川植物園フェンス・デザインコンペティション 優秀賞」(主催:東京大学)を受賞した。実際の設置を前提として「地域に開かれた植物園のフェンス」への提案が求められ、150点の応募から選ばれた。

■佐藤光彦教授が、「長野市第一庁舎及び長野市民会館建設設計者選定プロポーザル」の1次審査通過者に選ばれた。25点の応募があった。

■今村雅樹教授が、「京都府総合資料館(仮称)公募型設計競技」に入選した。京都の情報発信に寄与する、世界に誇る文化・環境・学術の拠点となる施設への提案が求められ、106点の応募から選ばれた。

■山本匡希君、斎藤大亮君、町田昂弘君

8111 アンケート調査による支援制度を利用したまちづくりの成果と実態 助成財団による住まい・まちづくりの支援制度に関する研究 その1 ○長島早枝子(日本大大学院)・森實幸子・山中新太郎

8112 支援制度を利用したまちづくり事例の検証と考察 助成財団による住まい・まちづくりの支援制度に関する研究 その2 ○森實幸子(デジミホ)・長島早枝子・山中新太郎

8163 東京圏における既存建物を活用した高齢者専用賃貸住宅の運営実態と改修方法に関する研究 ○大岡亜沙美(小田急不動産)・川島和彦

## 建築歴史・意匠

9173 山越邦彦の「欧州の新しい住宅観」について 山越邦彦研究・その7 ○矢代眞己(日本大短大)・梅宮弘光

9174 山越邦彦のドキュメンテーション活動とそのモダニズム思想 山越邦彦研究・その8 ○梅宮弘光(神戸大)・矢代眞己

9177 米国家建築家コラムの城郭保存に関する論説の内容と価値について 在日期間の記事報告中心にして ○王 軍(日本大)・重枝 豊

9215 17世紀末から18世紀におけるディンの平面構成について ディン・トーハとディン・ハンケンの分析を中心として ○大山亜紀子(日本大)・重枝 豊

9321 妙喜庵待庵における南側壁面の「小壁」に関する一考察 模型を用いた茶室採光の実証的研究 その1 ○中村林太郎(日本大)・重枝 豊

9380 ルートヴィヒ・ヒルバースアイマーの「キャビン型寝室」について ツァイレンパウ形式のジードルンクにおける住戸平面の近代化 その3 ○田所辰之助(日本大)

## 建築デザイン

14020 Kamaboko Curtain 蒲鉾板を用いた空間の創出 ○池上晃司(日本大大学院)・鈴木康二郎・森本栄貴

14026 人力でつくるテンポラリー・スペース ジオデシック・アルミドームの構造デザイン ○斎藤公男(日本大)・岡田

## 章・宮里直也

14027 「百年の風」をデザインする 「ステンレスによるテンセグリック・タワーの制作と施工」 ○秋山 孝(多摩美術大)・斎藤公男・高田清太郎・岡田 章・宮里直也

14031 富士山五合目再生 文化的景観形成を目指した観光拠点施設の設計 ○榎垣幸志(日本大大学院)・酒井 誠・永嶋竜一・山中新太郎

14058 農業と建築の融合を目指した次世代型農業研究学習センターの提案 ○松本晃一(日本大大学院)・山 達郎・三平奏子・山中新太郎

14063 伊豆・下田における「まち遺産」の活用 その1 旧町に残る伊豆石建築物について ○三平奏子(日本大大学院)・酒井 誠・榎垣幸志・落合正行・山中新太郎

14064 伊豆・下田における「まち遺産」の活用 その2 伊豆石建築物の構造補強について ○滝 英規(滝一級構造研究室)・山 達郎・三平奏子・落合正行・山中新太郎

14065 伊豆・下田における「まち遺産」の活用 その3 旧澤村邸の改修事例について ○落合正行(PEA...)・三平奏子・榎垣幸志・滝 英規・山中新太郎

14076 日本大学理工学部駿河台校舎5号館免震レトロフィット ○広瀬景一(清水建設)・今村雅樹・湯山康樹

14102 Ocean View Hospice 葉山・緩和ケア医療(ホスピス)の計画と設計 ○野村雄一郎(日本大大学院)・渡辺富雄

14118 日本大学理工学部新サークル棟の設計とその利用 その1 ○山中新太郎(日本大)・永田健二・永嶋竜一・松本晃一・今村雅樹

14119 日本大学理工学部新サークル棟の設計とその利用 その2 ○永嶋竜一(日本大大学院)・永田健二・松本晃一・山中新太郎・今村雅樹

14121 川風を呼ぶところ ○大西 慧(日本大大学院)・菅原 遼・横内憲久・岡田智秀

14122 NGP Project ○鈴木大志(日本大大学院)・山本貴嗣・一木拓太・本杉省三

14130 1000mのエンガワ 公共施設を街に介入させプラットフォームとする計画 ○鈴木大介(日本大大学院)

■大野博史非常勤講師(オーノ JAPAN, 若色研'99年度修了)の「Ring Around a Tree(ふじようちえん増築)」が、「第6回日本構造デザイン賞」(主催:日本構造家倶楽部)を受賞した(表紙写真参照)。この賞は、建築設計の分野で優れた成果を発揮した構造設計者を顕彰するもの。

■中田捷夫氏(中田捷夫研究室,'65年度修了)、宇野亨氏、赤松佳珠子氏、小嶋一浩氏、伊藤恭行氏(シーラカンズアンドアソシエイツ)、高間三郎氏(科学応用冷暖研究所)、柳澤要氏(千葉大学)の「幕張インターナショナルスクール」が、「2011年日本建築学会作品選奨」を受賞した。

■小石川正男短大教授、坂塚裕梨短大助手、高田康史短大副手連名の「継愛す

## 教室ぷろむなード

る街園—古河が育てる園づくり—」が、「第13回日本建築学会東支部提案競技 美しくまちをつくる、むらをつくる 最優秀賞」(主催:日本建築学会関東支部)を受賞した。「風格を古河の街に展開する」をテーマに提案が求められた。また、池田智君、真部尚美さん、吉野祐太君(川島研M1)、米山隆晃君(同4年)の「祭から広がる古河の風格」が、「同 古河市長賞」を受賞した。

■佐藤光彦教授、内山晃一君、渋谷舞さん(佐藤光彦研M1)、小笠原隼君、丹

下幸太君、塚越望さん、藤本陽介君(同4年)が、「小石川植物園フェンス・デザインコンペティション 優秀賞」(主催:東京大学)を受賞した。実際の設置を前提として「地域に開かれた植物園のフェンス」への提案が求められ、150点の応募から選ばれた。

■佐藤光彦教授が、「長野市第一庁舎及び長野市民会館建設設計者選定プロポーザル」の1次審査通過者に選ばれた。25点の応募があった。

■今村雅樹教授が、「京都府総合資料館(仮称)公募型設計競技」に入選した。京都の情報発信に寄与する、世界に誇る文化・環境・学術の拠点となる施設への提案が求められ、106点の応募から選ばれた。

■山本匡希君、斎藤大亮君、町田昂弘君

(今村研4年)の「呼吸する小屋」が、「学生のための住宅デザインコンペティション 入賞」(主催:公益財団法人システム建材産業振興財団)を受賞した。震災後の新しい家にふさわしい「新しい家」への提案が求められた。

■田中麻未也君(佐藤光彦研 M2)、中村隆志君(横河研 M2)、鎌谷良君(本杉研 M2)、三角菜津紀さん(今村研 M1)の「時を止め、時を装う。」が、「第46回セントラル硝子国際建築設計競技」(主催:セントラル硝子(株))に入選した。「2050のガラスの建築」への提案が求められ、384点の応募から選ばれた。



「時を止め、時を装う。」

■中村隆志君(横河研 M2)の「瓦の原」が、「第1回葛賞学生アイデアコンペティション 佳作」(主催:全国陶器瓦工業組合連合会)を受賞した。「都市における『瓦』を用いた新しい空間提案」への提案が求められた。

■田中麻未也君(佐藤光彦研 M2)の「すきま風と滲んだ光の大きな屋根」が、「第7回『新木造の家』設計コンペティション」(主催:特定NPO 森林をつくろう)に入選した。「未来の日本に残す家」への提案が求められた。



「すきま風と滲んだ光の大きな屋根」

■鈴木章弘君(横河研 M1)、丸山義貴君(今村研 M1)、太細雄介君(佐藤光

彦研 M1)、山達郎君(山中研 M1)の「品川区再生プロジェクト」と鈴木竜一君、平田知明輝君(都市計画研 M1)、柏崎修君、水谷亮君(同 M2)の「Adventure Jog—私たちは『品川アドベンチャー jog』を品川地域と商店街の活性化に対して提案する。」が、「大学・地域の協働による学生まちづくりプレゼンテーション大会 特別賞」(主催:東京商工会議所)を受賞した。

■中島誠仁君(不動産・横内研 M2)の「都心型漁業を核としたコンパクトシティ形成に関する研究」が、「『豊かなウォーターフロントの形成』懸賞 日刊建設通信新聞社社長賞」(主催:(株)ウォーターフロント開発協会)を受賞した。

■横内憲久教授、岡田智秀准教授(社会交通工学科)の「海岸空間とその背後空間を一体的に捉えた新たな海岸まちづくりに向けて」が、日本都市計画学会「都市計画論文集 Vol.46 No.3」に掲載された。

■八藤後猛准教授の論文「波形手すりの利用評価に関する研究」が、日本福祉のまちづくり学会論文集 Vol.13 No.3 (2011年11月号)に掲載された。

■八藤後猛准教授他による論文「子どもの遊び場におけるリスクの効用に関する調査研究」が、こども環境学会「こども環境学研究 Vol.7 No.1」に掲載された。

■羽入敏樹短大准教授の原著論文「A Framework for Characterizing Sound Field Diffusion Based on Scatterings Coefficient and Absorption Coefficient of Wall」が、Journal of Building Acoustics, Volume 18, Number 1-2 (2011)に掲載された。

■赤澤加奈子さん(都市計画研 D1)、根上彰生教授、三橋博巳教授、宇於崎勝也准教授連名の論文「近代における分譲別荘地開発の展開に関する研究—静岡県熱海市を事例に—」が、日本不動産学会平

成23年度秋季全国大会(第27回学術講演会)論文集に掲載され、同大会で発表を行った。

■9月25日～10月1日にUIA2011東京大会(第24回世界建築会議)が開催され、本杉省三教授の論文「Origin of Hanamichi and Spacial Structure in Kabuki Theatre」、吉田直樹氏(松田平田設計、本杉研'09年度修了)、本杉省三教授連名の論文「A Study on Calculation Method of Bicycle Parking Lots Regulated by Ordinance for Building」、森田有貴さん(本杉研 M2)「A study on the Character of Public Open Space from the Actual Conditions of Use—A case study of Chiyodaku, Tokyo—」を発表した。

■今村雅樹教授は、「建築家フォーラム」(会場:LIXIL:GINZA)にて、9月5～13日に展覧会「実作へと繋がる次点コンペ案たち」を開催、13日に講演会「オープンパブリック/クローズパブリックの新図式」を行った。

■小石川正男短大教授は、10月31日～11月4日に展覧会「小石川正男建築コンペ図面展Ⅱ」を池袋オレンジギャラリーにて開催した。これは、コンペ入賞50作品を中心としたもの。

■山本匡希君、伊藤舞さん(今村研4年)は、9月5～10日に行われた「JCSN 会津サマーボランティア『元気福島』Project」(主催:NPO 日中交流推進機構)に委員長として参加した。これは、他大学(早大、東大、立教大、千葉大など)の学生たちと協力した復興活動を福島県会津若松市で行ったもの。

■本年4月14日に田治見宏名誉教授がご逝去された。享年87歳。謹んでご冥福をお祈りいたします。

■山田明里助手が9月30日をもって退職された。長い間ありがとうございました。

駿建目次

2011年11月号 Vol.39 No.3 通巻165号

表紙『Ring Around a Tree(ふじようちえん増築)』

設計:手塚貴晴+手塚由比

構造設計:大野博史

撮影:手塚建築研究所

SUPER JURY 2011

2011年度 デザインワークショップ I

第43回 建築学生海外研修旅行報告

オリエンテーション報告

私と建築

2

4

6

11

12

偲ぶ

2011年度 日本建築学会大会(関東)

建築学科教室関係者発表論文リスト

教室ぶろむなード

13

14

19